

フラメンコと足のパフォーマンス

——小島章司との対話——

市 川 雅

1. フラメンコに足は必要か？

幽霊には足がないとよくいわれる。柳の下に立ち現れる幽霊は全身をよく見ると足がないというのだ。幽霊の出現に驚くのではなく足のないことに異質な存在を感じ、他界から来たことを知り、驚くのだろう。幽霊には足がないから、足音が全然しないので、幽霊がどこからともなくやってくるのを感じることができない。幽霊は突然そこに立つのである。

フラメンコに幽霊が出てくる。カルメロという男の幽霊だが、ファリヤの「恋は魔術師」のうらみがましい昔の恋人として舞台に登場する。映画でも、舞台でも見たが、かの有名なアントニオ・ガデスの幽霊であった。ガデスはもともと絶妙なフラメンコの足さばきをもっているが、この時ばかりは足音を高く鳴らしはしなかった。激しい足さばきを見せても幽霊だから足音を出してはならないのにいらだち、足のない不運を嘆いて悲しげだった。上半身にはガデス特有のゆっくりした手の動きがあり、いかにも幽霊にふさわしかった。

足を床で踏めば当然足音がし、そのリズムがフラメンコの三拍子、二拍子の定型を作っている。足音がなく、身振りだけでは分節化がうまくいかず踊るのがむずかしいだろう。その困難を乗り越えるのが高等テクニックで、ガデスならではということになる。

2. フラメンコの足投の源泉

フラメンコ・ダンサーは靴をはいて床を踏むのが通例である。靴底はどうなっているのかひっくり返して見ると、爪先に固めて釘が打ってあり、踵の部分にも打ってある。これが鋭い金属音の秘密である。だが、フラメンコでは音を出すためにだけの目的で足踏みをしない。そこが、フレッド・アステア演ずるタップ・ダンスと違うところだ。タップでは音を出すための足技で、足を放り出すように演じられることが多いが、フラメンコでは足音を出す、足を踏みしめるという原始宗教の儀礼的行為の痕跡がたしかにある。ジプシーの愛好するサンブラという曲では女性舞踊手は裸足で踊る。音など出なくても気にする風はない庭などで踊ることも多い。このサンブラの例でもわかるように足踏みをして必ず音が出る必要はなく、踏むことが大切なことがわかる。

ジプシーはインド・デカン高原のトラビータ族の後身といわれている、西漸する時アラビアから

バルカン半島へ行ったのがハンガリー・ジプシーで、北アフリカを通過してスペイン南部にたどりついたのがフラメンコを創造したジプシーである。インド舞踊のいずれもが裸足で強く床もしくは土を踏むことはよく知られている。南インドにはバガバティという大地母神がいて祀られ、儀礼的な芸能の主演を演じている。神として崇められる土地の蛇も地母神的な役割を負わされている。人間達は土を強く踏むことによって蛇などを眠りから喚起し、土の地母神的な威力を強化して、大地を肥沃にするというわけだ。だから、インド舞踊は農耕儀礼の一種と考えてもよいだろう。

だが、スペインの南部はオリーブしか生育しない荒地で、土地の豊穡を望むには適した場所ではないらしく、土中に住むのは蛇でもなければ地母神でもなく、ドウエンデと呼ばれる妖精で、どちらかといえば悪魔に近い存在で、人間に憑伝し、狂わすといわれている。ドウエンデについては詩人、劇作家であるガルシア・ロルカがこのことを説明し、フラメンコ・ダンサーや歌手にドウエンデが取り憑くと、奇跡ともいえるパフォーマンスの瞬間を見られるという。偉大な歌手ニーニャ・デ・ペイネスの歌にロルカはドウエンデの到来を感じ、またアントニオ・ルイスは肉体を突き動かすドウエンデを信じると語っていた。現在のダンサー達はこうした俗信をあまり信じていないらしく、小島章司もまた自身が厳密にコントロールした知的な試みこそがフラメンコ・ダンスだという。

3. 足のパターン

基本的には足の踏み方は3種類しかない。爪先、全部を降す、踵の3種類だが、それを組合せ、さらに2拍子、3拍子というリズムがこれに加わり、変型として靴の横を使ったりするヴァリエーションがあったりする。足の音は強くなったり、弱くなったりし、様々に変化する。男と女とでもまた異なり、女ももちろん足を踏むが、どちらかといえば手の婉やかな動きを誇示することが多い。ただカルメン・アマヤのように強くて速い足の特徴にするダンサーもいることはいるが、そう多くはない。アマヤは映画「バルセロナ物語」で“機関銃”のようなサパテアードを誇示していた。

男のダンサーは足技によって評価される。強い足、その人独特な、そして複雑なパターンの組合せなどである。極端な場合、手なんかかまわずに足だけで踊ったり、自分の足を見て踊り観客の方

を見ないダンサーもいるぐらいだ。男の足のために作られたと思われる曲もある。ファルーカはほとんど男が踊るもので、サパテアードはその名のとおり足技のための踊りである。足技のための踊りは時々、“シン・ギタルラ”とって伴奏なしで踊られることがある。足技を見せるにはこ一番というわけで、男達は複雑、繊細、強さなどの要素を取り込んだり、リズムにオフ・ビート、シンコペーションとでもいえる間拍子を加えたりする。

フラメンコの場合、足ばかり強調されているように見えるが、脚部はどうなのであろうか。女性の場合腰を落とすから膝が重要になり、強い腰と膝が必要とされる。足の置き方はバレエのように極端に開かれることはなく並足に近い。大腿部は腰から足に続く支柱部であるが、時々上げた大腿部を手で叩く振りなどを見かけることがある。

*1991年度秋季第32回舞踊学会
『舞踊學』第15号別冊より転載